

# 林 達夫 小伝

Tatsuo Hayashi



林達夫氏は、明治35年（1902年）鳥取市に生れ、大阪高等工業学校機械科を経て、昭和2年東北帝国大学工学部金属工学科を卒業、直ちに大同製鋼株式会社（現大同特殊鋼株式会社）に入社した。大学在学中は本多光太郎博士、大同入社後は取締役副社長川崎舎悦三博士の影響を受け、特殊鋼製造技術の研究に励んだ。

以後昭和16年取締役、昭和25年常務取締役、昭和36年専務取締役、昭和39年代表取締役副社長に昇進し、昭和48年相談役、後社友となった。

その間、特に特殊鋼溶解用電気炉の設計製作について日夜研究を重ね、幾多の発明考案を行い、画期的な改革をするとともに、その事業化に成功し、氏の指導のもとに製作された電気製鋼炉は、国内生産基数の過半数を占めた。

また、氏の業績は電気製鋼炉のみならず、これに関連する加熱炉（電気抵抗炉、燃焼炉）の製作にも及びその性能向上に貢献した。

氏は昭和19年工学博士の学位を授与され、永年にわたる功績により、帝国発明協会より有功賞、進歩賞を、日本鉄鋼協会より香村賞、渡辺義介賞等を受けた。

氏は生涯を通じて研究してきた電気炉に深い関心を持ち、将来ますますこの方面の研究の発展を祈願して、昭和54年日本鉄鋼協会へ私財500万円を寄贈した。日本鉄鋼協会は電弧炉（フェロアロイ製造炉を含む）の設備、操業に多大な功績のある者の表彰に林賞を贈呈することとした。

平成4年6月17日呼吸不全のため逝去された。享年90才。